

令和6年1月21日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

春の彼岸法要ご案内

大寒の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

浄土真宗では、聞法を第一とします。み教えを聞くということが最も大切とされ、聞法の道場としての本堂があります。是非、お聴聞の座にお誘いあわせの上、お参りください。

どこにいても阿弥陀様に照らされ、よびかけられ、支えられているという「おかげさま」をいただき、報謝の念仏を門信徒の皆さまとともに、よろこびたいものです。

尚、感染症対策として、参拝の際はマスク・手指消毒を推奨します。宜しくお願い致します。

記

1.と き	令和6年3月23日（土）午後1時から
2.おつとめ	仏説阿弥陀経
3.ご講師	亀田 信暁 先生（綱津町 願生寺）

-
- ◇ 本堂入り口に能登半島地震募金箱を設置しています。宜しくご協力ください。
 - ◇ “月のことば”を配布します。
 - ◇ 法要前の掃除・準備を法要当日 3月23日 8時より行います。お手伝い頂ける方は よろしくお願ひします。お聴聞させて頂くみなでご法要を作りましょう。
 - ◇ 世話人（布令人）の方、この一年布令ごとなどごくろうさまでした。5月予定の門信徒会の総会まで、現世話人の任期ですのでよろしくお願ひします。
尚、次年度の世話人の人選方を各班ともよろしくお願ひします。
 - ◇ 門信徒会費 令和5年度分未納者の方は、3月中に納金をよろしくお願ひします。

予告：4月は会計整理、監査、役員会、門信徒総会の月ですが、現時点で予定立案できていません。決まり次第、関係者にご連絡、ご依頼申し上げます。その折には、よろしくお願ひいたします。

伝道

「歎異抄にであう 無宗教からの扉」安満利麿 から抜粋

阿弥陀仏は「南無阿弥陀仏」という「名」あるいは「音」(声) になっている仏であり、阿弥陀仏が存在するのは、私が「南無阿弥陀仏」と口で称えるときだけなのです。言い換えれば、「名」を称える(称名する)のは間違いなく私なのですが、同時に、それは阿弥陀仏のはたらいているすがたでもあるのです。なぜなら、阿弥陀仏は「称名」という「はたらき」になっているからです。

阿弥陀仏からすれば、私が「南無阿弥陀仏」と称えることによって、そのはたらきをまっとうできるのであり、私が「南無阿弥陀仏」と称えないかぎり、阿弥陀仏と言えども、私を仏道へ誘う手立てがないのです。

阿弥陀仏は万物の創造主として万物に君臨する存在ではなく、私を仏たらしめようと具体的にはたらきかける「作用」なのです。私が称名しようがしまいが、私とは無関係に仏であり続けているのではない。阿弥陀仏の関心は、私がそのはたらきを実践するかどうかにあるのです。

「南無阿弥陀仏」という言葉は経典にある言葉です。経典は「真実」を悟った人たちによって制作されたと考えられており、「南無阿弥陀仏」という言葉も、あくまでも「真実の世界」のシンボルであるところに意義があるのです。「南無阿弥陀仏」は、いわば「真実の世界」からの贈り物と言えましょう。

阿弥陀仏が「南無阿弥陀仏」という「名」になっている以上、「南無阿弥陀仏」と称えることは、私の中で阿弥陀仏がはたらくことであり、阿弥陀仏が私の中ではたらく以上、私は仏になる道を歩んでいることになります。ということは、念仏をすることは何かの手段ではなく、「仏になる」ことそのものに他なりません。称名念仏は「仏道そのもの」なのです。

「自分の人生観で良いのだ!」という自信が、実は本当の自信ではなかったと気づくとき、初めて本願念仏への道が始まるのです。『歎異抄』は、その道筋を教えてくれているのです。

われ称え われ聞くなれど 南無阿弥陀
つれてゆくぞの 親のよびごえ

原口針水 和上

ななもあみださんぶらー

